

## 薬剤部

### 1. スタッフ（2024年4月1日現在）

薬剤部長	大塚 潔
副薬剤部長	猪股ふみ子
	鈴木 栄
	村岡 篤
主幹薬剤師	長谷部忠史
主任薬剤師	中澤美智子
	石井 香織
	井上 雅美
	立石 直人
	木村 正彦
	新津 京介
	遠藤 啓之
	佐藤 久美
薬剤師	計57名

### 2. 薬剤部の特徴

質の高いファーマシューティカルケアを目指し、医薬品の適正使用の推進による治療効果の向上と患者の安全管理への貢献、病棟など院内における医薬品に関するインシデント・アクシデントの減少、薬剤師の専門性を活かしたチーム医療の中で責務を果たせるよう業務に取り組んでいる。

### 3. 業務内容と実績

#### 1) 業務内容

##### ①調剤業務

外来処方では2006年10月より院外処方を原則としている。薬剤部では外来診察室で発行された院外処方箋の全てを処方監査する体制をとり、用法・用量、相互作用等の確認を行い安全な薬物療法を心がけている。また、在宅療養に必要な医療材料等も薬剤部で対応し、必要がある患者さんには実地指導しながら説明をしている。2021年3月には外来の薬剤部カウンターに投薬表示版も新規導入した。

入院調剤に関しては、原則、一包化調剤を行い病棟での医薬品に関する事故防止の観点を中心に業務を展開している。また、2020年3月から、全自動錠剤分包機、薬袋印字システム等を含めた薬剤業務支援システムを導入し業務効率化を行った。また、2021年9月にはGS1 データバーを用いた監査システム（Hp-PORIMS）導入し、ピッキングミスはほとんどなくなった。

注射薬調剤は、入院・外来問わず全ての処方監査を行った後、患者個人単位・一回量ごとの取りそろえを

実施しており、TPNの調製、危険薬剤（抗がん剤など）の混合・調製、外来化学療法における患者指導などの業務も行っている。

外来化学療法においては、抗悪性腫瘍剤の投薬又は注射の必要性等を指導する「がん患者指導管理料ハ」を算定している。また、地域調剤薬局と連携充実加算及び薬剤情報提供書（トレーニングレポート）による連携強化を実施している。日本臨床腫瘍薬学会のがん診療病院連携研修の認定施設として登録しており年間2～4名の保険薬局薬剤師の研修生の受け入れを行っている。

##### ②医薬品管理業務

医薬品管理としては、センター内で使用する医薬品の安定供給のほか病棟在庫を原則として置かないことにより医薬品の利用効率を上げ、デッドストック等による医薬品の期限切れを防止している。

また血液製剤を中心とした特定生物由来製剤医薬品の記録管理も実施している。

##### ③医薬品情報業務

院内の医療スタッフからの医薬品に関する問い合わせに対応するほか、新規採用薬を含めた医薬品全般における電子カルテシステムCOSMOSの処方・注射オーダーマスタ、医薬情報関連マスタのメンテナンスや薬剤部門システムの管理も行っている。

DI Newsや添付文書改訂情報等を随時発行し、積極的な情報提供を行っている。また、医薬品情報一元管理システム（JUS D.I.）を随時更新し、COSMOS上から最新の医薬品情報の検索が可能となるようメンテナンスしている。

##### ④製剤業務

当センター患者さんに供する医薬品で、治療上必要であるにも拘わらず市販されていない薬剤の調製を行っている。調製している製剤には一般製剤と無菌製剤とがあり、前者には散剤、軟膏剤、内用液剤、外用液剤など、後者には外用液剤などの滅菌作業や、クリーンベンチや無菌室内で製造するもので無菌操作を必要とする点眼剤・注射剤の調製等を含む。

##### ⑤病棟薬剤業務

様々な病棟薬剤業務に取り組むことで、薬物治療の質や医療安全の向上、さらに医師・看護師等の負担軽減にも貢献することを目的に、内服薬は用法・用量の確認に加え配薬業務も行い、注射薬も同様に用法・用量や配合変化等の確認に努めている。集中治療室においてはプロトコルに基づく薬物治療管理（PBPM）に沿って抗菌薬の投与支援を行っている。さらに医師

や看護師など他の医療スタッフへの情報提供や、入院期間の短縮、DPCの導入などの環境の変化に対応するため、特に入院時の持参薬のチェックや退院時の服薬指導など薬剤管理指導業務にも力を注いでいる。また、病棟業務支援システム（Pharma Road）の導入により業務効率化を行っている。

## 2) 業務実績

(2024年1月～2024年12月)

### ①外来調剤に関すること

外来処方箋枚数 (院内調剤分)	13,978
院外処方箋枚数 (発行率 %)	149,795 (91.5%)
外来注射処方箋枚数	76,027

### ②入院調剤に関すること

入院処方箋枚数	136,380
入院注射処方箋枚数	264,389

### ③製剤に関すること

TPN調製件数	1,814
抗がん剤混合調製件数	21,778

### ④PFM・看護面談介入に関すること

PFM介入件数	6,070
看護面談介入件数	3,526

### ⑤薬剤部学生実習受入に関すること

受入人数	31
------	----

## 4. 研究・学会活動等

<2024年学会発表>

第54回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会  
(2024.8.10.11)

「薬剤管理指導の質の向上へのチャレンジ 薬剤師のアセスメント力を高める」

「救急の最前線でも、後方支援でも輝く救急専門薬剤師を目指して」

「Ca拮抗薬の急性中毒に対してグルコン酸カルシウム・グルカゴン・インスリン持続投与が有効だった1例」

「腎機能低下患者に対する投与量チェックマニュアル対象薬剤拡大の効果」

第57回日本薬剤師会学術大会 (2024.9.23)

「若手薬剤師が考える「彩」ある職能の可能性～病院薬剤師が起点となる地域医療連携～」

<2024年度講演会>

2024年4月11日

第9回がん薬物療法研修会

「ココがポイント！押さえておこう腎機能に関する基礎知識part II」

2024年4月24日

第38回さいたま地域連携ネットワーク抗がん剤勉強会

「肺がん領域における基本知識の習得と ケーススタディを解き明かす」

2024年5月17日

第5回さいたま救急集中災害医療薬学研究会

「出血性脳卒中患者の緊急対応時における薬剤師の役割」

2024年6月13.14日

地域社会振興財団 薬剤師研修会

「災害医療における薬剤師の関わり」

「周術期における薬剤師のかかわり」

「糖尿病における薬剤師のかかわり」

2024年6月17日

第39回さいたま地域連携ネットワーク抗がん剤勉強会

「乳がん領域における基本知識の習得【part 1】」

2024年6月20日

第10回がん薬物療法研修会

「高血圧薬とコラボ企画（抗VEGF抗体薬）」

2024年6月26日

第41回さいたま地域連携ネットワーク抗がん剤勉強会

「免疫チェックポイント阻害薬を中心に基本知識の習得とケーススタディを解き明かす（irAE編）」

2024年7月17日

第42回さいたま地域連携ネットワーク抗がん剤勉強会

「乳がん領域における基本知識の習得【part 2】」

2024年9月11日

第11回がん薬物療法研修会

「ここがポイント！医療用麻薬の基本的な考え方と処方意図」

2024年10月30.31日、11月1日

実務事前実習Ⅱ（日本薬科大学）

90分講義

救急医療と薬剤師の関わり

救急×心不全症例に学ぶ

感染症、TDM

2024年11月27日

第48回さいたま地域連携ネットワーク抗がん剤勉強会

「大腸がん領域における基本知識の習得 ～支持療法から処方意図の解説～」

2024年12月4日

第12回がん薬物療法研修会

「ここがポイント押さえておきたいがん薬物治療～心不全患者の注意事項」

5. 事業計画・達成度・今後の目標

1) 2025年の事業計画・達成度

●事業計画（目標）

薬剤管理指導料の件数増加と退院時薬剤情報管理指導料の更なる増点を目指す。

2024年診療報酬改定において、がん薬物療法体制充実加算も算定可能となったため今まで以上の積極的な導入を目指す。さらに、術後疼痛管理チーム加算取得増加を目指す。

PFMにおいて今後の対象診療科増加に対応する。

●達成度評価

薬剤管理指導料等（回）

薬剤管理指導料1（380点）	15,638
薬剤管理指導料2（325点）	10,267
退院時薬剤情報管理指導料	11,316

連携充実加算等（回）

連携充実加算（150点）	504
--------------	-----

術後疼痛管理チームの一員として450人（2024/1～12）の加算に貢献している。

2) 2025年の目標等

「がん薬物療法体制充実加算」に関して、積極的に取り組んでゆく。また、薬剤師が処方入力代行業務（持参薬のDO処方）等のタスクシフトを行なうことが、不必要な処方変更を減らし、ひいてはインシデント削減、患者サービス向上につながると考える。本年度は、一部の病棟で処方入力代行業務を開始する。

「バイオ後続品使用体制加算」も算定可能となったため今まで以上の積極的なバイオシミラーの導入を目指す。

【専門的技術、知識を有する薬剤師の育成】

埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター 生涯研修認定薬剤師	12名
日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師	2名
日本薬剤師研修センター 漢方薬生薬認定薬剤師	1名
日本くすりと糖尿病学会 糖尿病薬物療法認定薬剤師	1名
日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師	5名
日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師	2名
日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療専門薬剤師	3名
日本腎臓病薬物療法学会 腎臓病薬物療法認定薬剤師	2名
日本臨床栄養代謝学会 栄養サポートチーム専門療養士	4名
日本救急医学会認定 ICLS・BLSコースインストラクター	1名
日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト	3名
日本化学療法学会 抗菌薬化学療法認定薬剤師	2名
日本臨床薬理学会 認定CRC	1名
循環器病予防療養指導士	1名
日本核医学会 核医学認定薬剤師	1名
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	2名
日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師	1名
日本臨床救急医学会 救急専門薬剤師	1名
糖尿病療養指導士	5名
日本薬剤師研修センター 小児薬物療法認定薬剤師	1名
日本腎臓病協会 腎臓病療養指導士	3名
日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師	1名
日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師	1名
日本麻酔科学会 周術期管理チーム認定	2名
アレルギー疾患療養指導士	2名
日本循環器学会 心不全療養指導士	1名
日本麻酔科学会 術後疼痛管理研修終了	1名
日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師	7名
日本DMAT隊員 業務調整員	2名
普通第一種圧力容器取扱作業主任者	1名
埼玉県肝炎コーディネーター	2名
公益財団法人エイズ予防財団 HIV検査相談研修会	1名